



4 計画の実現に向けて

4 計画の実現に向けて

本計画の実現に向けては、共通の将来像を目指し、関連する事業を束ね相互に連携しながら、多様な主体と共に進めていく必要があります。

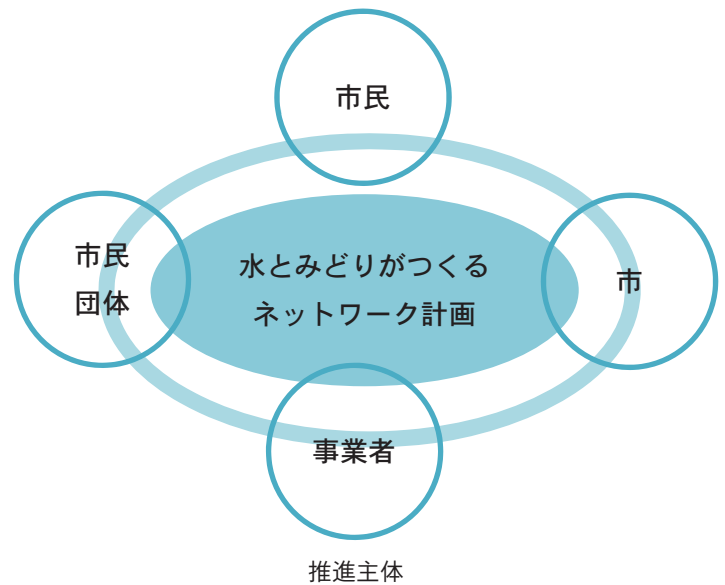
本計画を進めるための「みどりトコトコ・プロジェクト」は、多くの主体による横断的な取り組みのもとで実現を目指します。



(1) 多様な主体による計画の推進

本計画は、水・みどり分野のみならず市、市民、市民団体、事業者など、多くの主体による取り組みが必要となります。関連事業を通じ協力をお願いするとともに、様々な機会を通じ本計画の周知・PRを図り、参画する主体を増やしていく取り組みを行います。

また、国や県、周辺自治体とも協力しながら、水とみどりがつくるネットワークを広げる広域的な連携を図ります。



■市民の役割

市民は、みどりへの愛情や理解を深めるとともに、健康を意識して水とみどりがつくるネットワークを歩き、その魅力を楽しむことが大切です。そして、水とみどり、地域の魅力を、より多くの人へと伝えていくことが望まれます。

■市民団体の役割

市民団体は、市とともに市民や事業者のみどりの活動やまちづくりの活動を支援することが重要です。また、水とみどり、まちのにぎわいをつなぐ、様々なアイデアを活かしたイベントを開催するなど、活動を広げていくことが望まれます。

■事業者の役割

事業者は、本計画の理解のもと、事業活動などを通じて、まちのにぎわいを生みだすとともに、水やみどりの保全・創出に配慮することが望まれます。

■市の役割

市は、本計画を推進するため、関係各課が連携し取り組みを進めるとともに、本計画の周知・PRに努め、市民や市民団体、事業者の活動をバックアップする体制や制度の整備を進めます。

(2) 市内の推進体制

～分野横断の考えに基づく「みどりトコトコ・プロジェクト会議」の設置～

本計画の推進にあたり、市内に事務局及び関係各課で組織する市内調整会議（みどりトコトコ・プロジェクト会議）を設置します。

会議では、個別の事業をそれぞれに実施するだけでなく、水とみどりがつくるネットワークを構築するという共通の将来像を関係者で共有し、複数の事業を複合的に動かし、連携しながら一体的に取り組みます。

■みどりトコトコ・プロジェクト会議 主な関連部署

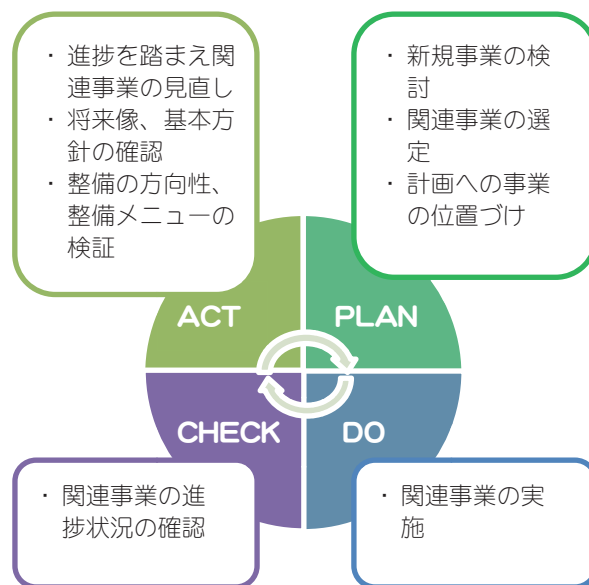
将来像	基本方針	主な関連部署
水とみどりがつくるネットワークの構築	1 水とみどりを守る	みどり自然課、公園課、環境対策課、環境政策課、河川課、都市計画課 等
	2 にぎわいを生みだす	商業観光課、みどり自然課、経営企画課、市街地整備課、所沢駅西口区画整理事務所、公園課、河川課、道路建設課 都市計画課 等
	3 みどりのにぎわいをつなぐ	河川課、経営企画課、みどり自然課、公園課、商業観光課、道路維持課 都市計画課 等
	4 みどりを歩く・楽しむ	健康づくり支援課、商業観光課、みどり自然課、農業振興課、産業振興課、文化芸術振興課、文化財保護課 等
	5 魅力を発信する	商業観光課、みどり自然課、経営企画課 等

(3) 計画の進行管理

①PDCA サイクルによる進行管理

本計画の将来像を実現するためには、関連事業を着実に推進し、定期的な進行管理を行うことが重要です。このため、計画（Plan）、実行（Do）、評価（Check）、改善（Act）のPDCAサイクルによる進行管理を行い、計画の実効性を高めます。

具体的には、みどりトコトコ・プロジェクト会議において、事業の進捗状況を確認するとともに、将来像や基本方針を確認しながら、継続する事業や新規に取り組む事業を選定し、事業を実施することにより計画の継続性・実効性を確保します。



PDCA サイクルによる進捗管理

②総合計画や行政評価、総合戦略との連携

本計画を推進する関連事業は、総合計画及び所沢市まち・ひと・しごと創生総合戦略の進行管理や毎年度の行政評価などの全庁的なマネジメントシステムの活用により進捗管理を行います。

点検・評価スケジュール

年度	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028
	前期					後期				
関連事業の進捗管理	計画策定	→								
計画全体の見直し					●					●

(4) 計画の更なる展開に向けて

本計画を基本に、更なる展開を図り、水とみどりがつくるネットワークの取り組みをより大きく広げていきます。

① SDGs へ貢献

SDGs (Sustainable Development Goals: 持続可能な開発目標) は、17の目標と169のターゲットから構成されています。SDGsは、世界中の人々が一緒になってより良い世界をつくるため、同じ目標を見据え、それぞれがどのような側面から貢献していくのかをわかりやすくしたものだといえます。(資料: 所沢市マチごとエコタウン推進計画)



本計画においては、特に、目標3「すべての人に健康と福祉を」、目標6「安全な水とトイレを世界中に」、目標8「働きがいも経済成長も」、目標11「住み続けられるまちづくりを」、目標13「気候変動に具体的な対策を」、目標15「陸の豊かさを守ろう」、目標17「パートナーシップで目標を達成しよう」の7つの個別目標の達成に寄与するための取り組みを進めていきます。

また、今後PDCAサイクルのもとで、本計画に基づく新たな事業を位置づけていく際も、SDGsへの貢献に配慮します。

◇ブラチスラバ市 (スロバキア共和国) との国際都市間協力プロジェクト

国際都市間協力プロジェクトとは、EUが実施する国際都市間協力プログラムの1つであり、EUの都市と世界各国の都市がペアを組み、取り組み分野を定め、共通の実行計画の作成を通して、互いの優れた知恵や経験を交換し合うものです。

所沢市の連携パートナー都市は、スロバキア共和国首都ブラチスラバ市で、「気候変動適応策」、「都市における自然に根差した課題解決策及びスマートエコシティづくり」を連携テーマとしています。

このプロジェクトは、SDGsへの貢献や、地球温暖化に関するパリ協定の達成を目指しており、実行計画は、本計画や所沢市マチごとエコタウン推進計画(第3期所沢市環境基本計画)を踏まえ、作成します。



②所沢流・水とみどりの保全、緑化手法へのチャレンジ

◇新たな水とみどりの保全、緑化手法の検討

所沢市では、貴重な緑地の公有地化を実施するとともに、トトロの森やオオタカの森など、民間主体によるトラスト活動が活発に行われています。また、ふるさと所沢のみどりを守り育てる条例に基づく里山保全地域や、まちなかみどり保全地区など、市独自の制度を創設するとともに、保全した緑地への維持管理の取り組みを進めてきました。

また、緑化についても、公共施設緑化ガイドライン、街並み緑化ガイドラインにより、緑化のあり方を示すとともに、とことこガーデン制度やみどりのカーテン制度など、市民の取り組みも活発に行われています。

今後も、市の実情に合わせた、新たなみどりの保全、緑化への取り組みが考えられます。



所沢市独自制度：里山保全地域制度



所沢市独自制度：まちなかみどり保全地区制度

考えられる取り組み

- 適切な維持管理による水とみどりの質の向上への取り組み
- 屋上緑化・壁面緑化への取り組み
- 雨水を引き込むレインガーデンへの取り組み
- みどりの保全と緑化によるヒートアイランド現象緩和への取り組み
- コミュニティガーデンの推進

◇財源の確保

今後、水とみどりがつくるネットワークの構築にあたっては、財源の確保も重要です。水とみどりの連続性を確保するため、森林環境譲与税の活用やクラウドファンディングなど、様々な手段による財源の確保について研究を進めます。

考えられる取り組み

- 緑の基金の適正な活用
- 森林環境譲与税の活用
- クラウドファンディングの活用

③多様なステークホルダーの参画する仕組みづくり

◇水とみどりがつくるネットワークのPRと市民や民間事業者との連携

水とみどりがつくるネットワークは、市全域を水とみどりでつないでいくネットワークであることから、その考え方を広く知らせ、連携する主体を増やしていくことが重要です。その普及啓発のため、以下のような取り組みが考えられます。

考えられる取り組み

- 水とみどりがつくるネットワークのロゴマークの募集など啓発活動
- 水とみどりがつくるネットワークを普及する花とみどりイベントの開催
- 水とみどりがつくるネットワークの情報ページの開設
- 水とみどりがつくるネットワークの連携事業者の募集
- 子どもたちとの取り組みの推進

◇「みどりトコトコ・プロジェクト」の拡大とブラッシュアップ

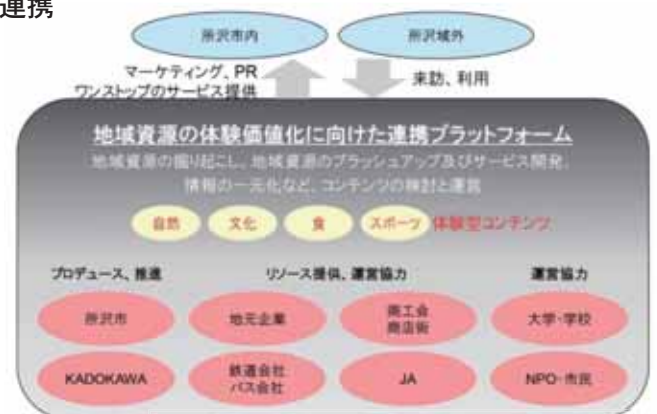
本計画の推進には、多分野との連携が重要なカギとなります。進捗管理や計画見直しの際には、新たな分野への取り組みや共同で実施すべき事業など、以下のような取り組みが考えられます。

考えられる取り組み

- 散策路へのサインの設置など、共同事業の実施
- サインの標準化指針の策定や一元的な管理の実施
- エコ・モビリティ導入などへの取り組み

◇COOL JAPAN FOREST 構想との連携

COOL JAPAN FOREST 構想では、市民や地元企業、関係団体等との連携地盤の強化を図り、分野横断的な検討を推進するためにステークホルダーが参加、協働する「産学官連携プラットフォーム」の構築を視野にいたした検討を実施しています。所沢市の地域資源を活用した体験型のイベントやツアープログラムの開発等、本計画との共通項目も多くあることから、COOL JAPAN FOREST 構想と連携した取り組みが考えられます。



資料：COOL JAPAN FOREST 構想

考えられる取り組み

- 産学官連携プラットフォームとの連携検討

◇広域的な観光連動

より広域的な魅力創出及び発信を行っていくために、所沢市の内外を問わず、様々な観光連動の可能性を民間事業者や周辺自治体と連携を図りつつ進めていくことが考えられます。

考えられる取り組み

- インバウンド向けツアーの観光パッケージ化
- 女子旅、ゆったり旅などターゲット層に応じた観光パッケージ化
- グリーンツーリズム、ヘルスツーリズム、スポーツツーリズムなどの観光パッケージ化
- 観光プロモーションの実施
- 観光コンシェルジュの育成



多くの人々とともに取り組み、
水辺やみどりに、にぎやかなまちに、人の流れが生まれる、
「水とみどりがつくるネットワーク」のある未来へ！